

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

ポピンズナーサリースクール鶴見

横浜市鶴見区鶴見中央 2 丁目 6-29

運営主体:株式会社 ポピンズ

● 実施概要	1 ページ
● 総合評価 (評価結果についての講評)	2~3 ページ
● 評価領域ごとの特記事項	4~7 ページ
● 分類・項目別評価結果	8~19 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	20~27 ページ
● 利用者本人調査分析	28~30 ページ
● 事業者コメント	31 ページ

公表日: 2017 年12月18日

実施機関: 特定非営利活動法人市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	ポピンズナーサリースクール鶴見（保育所）		
報告書提出日	2017年9月26日	評価に要した期間	5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

■評価方法

1、自己評価 実施期間 2017年4月28日～2017年6月19日	① 正職員に対しては、施設長が個別に受審の意図と評価項目の内容を説明。職員は個別に自己評価票に記入した。 ② 非常勤職員に対しては、趣旨を説明し、分かる範囲内で記入するよう依頼。職員は個別に自己評価票に記入した。 ③ ①及び②の自己評価票の結果を集計し、施設長および主任が最終的にまとめた。
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2017年6月17日～2017年6月30日	① 全園児の保護者（51世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。 ② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。
3、訪問実地調査 実施日：第1日 2017年7月27日 第2日 2017年8月2日	[第1日] ① 午前：各クラスで保育観察。 ② 昼食：4・5歳児クラス及びホールで食事の様子を観察。 ③ 午後：書類調査。施設長・主任に面接調査。 [第2日] ① 午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 ② 昼食：ホールで、0～3歳児の食事の様子観察。 ③ 午後：各クラス担任保育士5名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名に個別に面接調査。 その後、施設長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。
4、利用者本人調査 実施日：第1日 2017年7月27日 第2日 2017年8月2日	① 観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 ② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

ポピンズナーサリースクール鶴見は、JR京浜東北線「鶴見」駅、または京浜急行線「京急鶴見」駅から、徒歩約6分、商店街のはずれにあり、周辺には、高層住宅が多く建っています。平成27年（2015年）4月、株式会社ポピンズにより開設されました。

園の施設は、3階建てビルの1階にあります。保育室、調理室、事務室などがあり、中央には、多目的に使用できるホール（園では、ピアッツァと称している）が設けられています。屋外遊戯場（園庭）は小さいですが、近隣には多くの公園があり、子どもたちの散歩や遊び場として利用しています。

定員は60名（生後57日～就学前児）、開園時間は、平日7時～20時、土曜日7時～16時です。

企業理念は、「最高水準のエデュケア（*）と介護サービスで社会に貢献します」です。理念に基づき、教育目標を「人生で最も重要な時期の人間教育を目指します。1. 寛容な人間 2. 聡明で愛情深い人間 3. 探求心の強い人間 4. グローバル社会で活躍できる人間」としています。

（*）エデュケアとは、エデュケーション（教育）とケア（保育）を組み合わせた言葉です。

「エデュケア」を実践するため、ポピンズアプローチという手法を取り入れています。ポピンズアプローチでは、子どもたちの知力（知能と学ぶ意欲）を「知力8（エイト）」として、「言語」「音楽」「論理数学」「空間構成」「身体運動」「自然科学」「社会性」「自己受容」の8つの領域に整理していて、日々の保育は、「エデュケアプログラム」として、これらの領域を意識した活動としています。

◆ 高く評価できる点

1、子ども一人一人が、楽しく、生き生きと園生活を過ごすことができるよう取り組んでいます

朝や夕方の時間には、子どもたちが自由に遊べる時間を確保しています。ビーズ通しなど手指を使って遊ぶ玩具、ブロックやままごと遊び玩具、職員が手作りする玩具などで、自分の好きなことに熱中して遊んでいます。ブロックを使って高い塔を組み立てるなど、子ども同士で工夫している姿も見られます。

晴れた日は、散歩に出かけたり、公園で遊んだりする時間を設けています。例えば、散歩のときに“ちょうちが飛んでいるね”とか“カラスどこにいるかな”など、保育者が子どもたちに話しかけています。保育室では、カブトムシや金魚を飼育し、当番が餌をあげています。4・5歳児クラスでは、カブトムシを観察して気づいたことを紙に書いて、みんなの前で発表しています。ひらがな表を手にし、保育士に聞きながら、懸命に書いている姿が見られました。

また、「リトミックレッスン」が、全クラスで毎週行われています。講師の弾くピアノの曲に合わせて、子どもたちが歌いながら、身体全体を動かして楽しんでいる姿が見られました。また、幼児クラスでは、マット運動や平均台、鉄棒、トンネル遊び、ゴムひも遊びなどを、週1～2回計画的に行っています。

さらに、「バイリンガルレッスン」という英語の時間が月1～2回全クラスであり、専任講師による生の英語に触れる機会があります。そのほか、全園児が集まる毎朝のつどいや、食事やおやつの前に、英語の歌を歌っています。今月の歌として、日本語の歌と英語の歌が毎月取り入れられ、子どもたちは、遊びの中や、次の活動に移る合間など、さまざまな場面で歌っています。

給食では、各県の郷土料理や世界のさまざまな国の料理の献立が取り入れられています。また、4・5歳児クラスでは、バイキング形式を取り入れています。子どもたちは、配膳台の見本を見ながら、自分が食べられる量を茶わんや皿に取り分けています。

遊びや食事などさまざまな場面で、保育者は、子どもの言い分をていねいに聞き取ったり、態度、表情や仕草から子どもの気持ちを汲み取ったりして、一人一人の子どもの個性に応じた対応をしています。「エデュケアプログラム」を実践しつつ、子ども一人一人が、楽しく、生き生きと園生活を過ごすことができるよう取り組んでいます。

2、保護者との効率的な情報交換システムが構築されています

日々の家庭との情報交換ツールとして、連絡ノートではなく、ITシステムを利用したWEB連絡帳（ポピンズメモリーと園では称しています）を用いています。例えば、登園前に保護者がスマートフォンなどを通して昨日の様子や連絡事項を入力すると、担任が園のタブレットを通して、子どもが園に着く前に、状況を把握することができます。園からの連絡事項も、このシステムを利用して伝達しているので、夕方、保護者は、子どもを迎えに来る途上で、あらかじめ今日の様子を把握することができます。

また、毎月発行するポピンズニュースレター（園だより）も、このシステムを通じて配信しています。さらに、保護者はこのシステムを利用して、園のさまざまな情報などを得ることができるようになっていきます。

WEB連絡帳は、システムを通して、主任や施設長も内容を把握できます。良かった点や、連絡不十分や不適切な点などを、担当者に伝えることができるので、職員の励みとなるとともに、レベルアップにも役立っています。

◆ 改善や工夫が望まれる点

1、地域の子育て支援に取り組むことが望めます

開園後約2年半を過ぎ、内部体制が固まってきたので、今後は、地域の子育て支援に取り組むことが課題です。子育て支援へのニーズがあることは、園としても把握しているので、何から始めるか、いつから行うかなど具体的な計画を立てることが望めます。例えば、定期的な育児相談日を設けたり、育児講座を開いたりすることが考えられます。また、近隣の公園で、園児・保育者と地域の親子と一緒に遊ぶ機会を、日時を決めて行うことも考えられます。

2、研修のさらなる充実が期待されます

本社主催の新人研修・職位別研修・職種別研修や、横浜市や鶴見区などが行う外部研修に、必要な職員が参加しています。また、正職員に対する園内研修を行っていますが、主にマニュアルの読み合わせや内容確認の場となっています。今後は、保育技術の向上を目指したテーマも取り入れることが期待されます。

また、非常勤職員に対しては、日々の保育の中で、実践教育訓練（OJT）を主任が行っています。しかし、正職員が参加している本社主催の研修や横浜市などが行う研修に、非常勤職員が参加することは少なく、非常勤職員の資質向上への取り組みは今後の課題です。勤務時間の工夫をして、非常勤職員も正職員が参加している研修に参加できるようにしたり、園内で、非常勤職員全員を対象とした研修を行ったりすることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

※このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・企業理念は、「最高水準のエデュケア（*）と介護サービスで社会に貢献します」です。理念に基づき、教育目標を「人生で最も重要な時期の人間教育を目指します。1. 寛容な人間 2. 聡明で愛情深い人間 3. 探求心の強い人間 4. グローバル社会で活躍できる人間」としています。本社主催のさまざまな研修の折に、企業理念・教育目標を職員に伝えています。

（*）エデュケアとは、エデュケーション（教育）とケア（保育）を組み合わせた言葉です。

- ・人権の尊重について、本社が行う研修や鶴見区が行う研修に職員が参加しています。
- ・守秘義務については、全職員と誓約書を交わしています。保護者に対して、「重要事項説明書」を通して、守秘義務、個人情報の利用目的、写真等の取り扱いについて周知し、同意書を得ています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・保育課程は、子どもの最善の利益を第一義とし、教育方針や、外国籍の子どもが多いことなど地域の状況を考慮して作成しています。今後は、在園児の保護者も含めて、保育課程を入園時や年度初めに説明することが望まれます。
- ・保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しています。年間指導計画中には、教育目標4項目を、年齢に合わせてどのように展開していくかを記載しています。
- ・入園前に保護者と面談しています。面談の際に、子どもが遊具で遊んでいる様子を複数の職員で観察し、発達状況やコミュニケーションレベルを把握しています。
- ・0～3歳児は、昼食をホールで摂っています。4・5歳児クラスは、保育室内でバイキング形式での昼食を摂り、終了後清掃を行い、午睡の場所としています。ホールは、昼食の場だけでなく、全園児が集まる朝の集いや、月1回の誕生日会などにも使われ、異年齢児間交流の場となっています。
- ・乳児は、毎月個別指導計画を作成しています。幼児は、特に配慮や支援が必要な子どもについて、個別指導計画を作成しています。
- ・朝や夕方の時間には、子どもが自分の好きなことをして遊べる時間を確保しています。ビーズ通しなど手指を使って遊ぶ玩具や、ブロックやおままごとなど想像力を育む玩具、職員が手作りした玩具などで遊ぶ様子が見られました。アトリエという部屋を用意して、多数の玩具や素材、楽器、図鑑などを置き、子どもたちの好奇心を刺激しています。
- ・一斉活動やルールのある遊びとして、リトミックやごっこ遊び、ゲーム、ボール遊び、縄跳び、プール遊び、制作などを年齢や発達に合わせて取り入れています。
- ・カブトムシや金魚を飼育しています。カブトムシを見て、気付いたことを紙に書いて発表するなど、保育活動にフィードバックしています。
- ・子どもたちに提供する教育・保育を「エデュケア」と会社全体で名付け、「エデュケアプログラム」を通して子どもの8つの知力「知力8（エイト）」を伸ばすプログラムの実践を目指しています。毎日設定されるエデュケアプログラムの時間には、自然科学や言語、音楽、空間構成、身体運動などさまざまな活動を計画的に取り入れています。歌やリトミック、絵画、英語、運動などを積極的に行い、絵画は、施設長が子どもに教えていて、0歳児クラスから地域の展示会に出品しています。「バイリンガルレッスン」という英語の時間を設けて、月1～2回、全クラスの子どもたちが専任講師による生の英語に触れ合える機会を持っています。
- ・発達段階に応じて運動能力を高められるように、全てのクラスでリトミックを行うほか、運動カリキュラムの強化を行っています。乳児クラスではスキンシップを取りながら運動遊びができるようにしています。幼児クラスでは、マット運動や平均台、鉄棒、トンネル遊び、ゴムヒモ遊びなど発達段階

に応じた運動カリキュラムを、週1～2回計画して行っています。冬場には近隣の公園でマラソンもしています。

- ・子どもが残さず食べることを強制したり、叱ったりしないように、食事の時間にゆとりを持ち、食事が楽しくなる声かけをしています。4、5歳児クラスではバイキング形式を取り入れています。子どもたちは見本を参考にしながら、自分が食べられる量をよそっていました。
- ・子どもたちが食事及びその過程に関心を持つことができるように「年間食育活動計画」を立てています。行事食や他国の料理、郷土料理の予定を立て、三色食品群の説明などを行っています。ゴーヤーなど食材に触れる企画や、クッキングの計画を0歳児クラスから取り入れており、おにぎり作り、うどん作り、豆腐作り、カップケーキ作りなど、楽しい企画を行っています。
- ・WEB連絡帳を用いて保護者と情報交換をしています。登園前に保護者がスマートフォン等を通して連絡事項を入力すると、担任が園のタブレットを通して確認できるようになっています。園からの連絡事項も、ポピンズシステムを用いて伝達しています。
- ・食育イベントや制作などの時に保育参加を受け入れています。また、ハロウィンパーティーでは保護者が仮装をして参加したり、クラシックの生演奏を楽しむニューイヤーコンサートなどにも保護者が参加できるようにしています。今年度は「敬老お茶会」を企画し、園児の祖父母を招いています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・子どもの発達や状況に応じ、月間指導計画・週案を、クラスごとに作成・評価・見直しを行い、主任が最終確認しています。
- ・子どもや家庭の個別の状況・要望、子どもの成長発達記録を作成しています。個人別にファイルし、決められた書庫に保管、全職員が必要と見えることができるようにしています。
- ・特に配慮を要する子どもや支援を要する子ども一人一人について会議で話し合い、記録しています。職員は、特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもの保育に関する研修に参加しています。参加した職員は報告書を作成するとともに、職員会議で発表し、全職員が情報を共有できるようにしています。
- ・文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重しています。例えば、宗教上の理由などによる除去食の対応もしています。また、「バイリンガルレッスン」（英語の時間）を行い、給食で世界の料理を提供するなど、文化や生活習慣が違う国や地域があることを子どもたちが理解できるようにしています。
- ・苦情解決規程を定めています。苦情受付担当者は主任保育士、苦情解決責任者は施設長であることや、第三者委員に直接苦情を申し立てできることを重要事項説明書に記載するほか、苦情解決体制の概要をフローチャート形式で表し、園内に掲示し、保護者に周知しています。
- ・意見箱を設置しているほか、毎年12月に全保護者に対し顧客満足度調査を行っています。また、クラス懇談会などでも要望や意見を聞いています。さらに、運営委員会（年2回）でも、保護者代表から要望や意見を聞いています。
- ・「保健業務マニュアル」を整備し、健康管理や症状への対応、事故やケガへの対応、感染症の対応、与薬管理、SIDS（乳幼児突然死症候群）の予防対策などの手順を定めて、子ども一人一人の健康状態を把握しています。「重要事項説明書」に保健衛生について掲載し、保護者に知らせています。
- ・「安全管理マニュアル」「安全チェックリスト」を整備し、緊急連絡体制や大規模災害マニュアル、災害対策マニュアル、消防計画、園庭遊びマニュアル、散歩マニュアル、危険事例などを明確にしています。

4、地域との交流・連携

- ・民生委員との意見交換や園長会や、地域子育てイベントに向けた検討会、地域年長保育園の交流会などを通して、地域の子育て支援ニーズを把握しています。開設3年目であり、地域子育て支援のためのサービスや育児講習を実施することを課題としています。
- ・地域と友好的な関係を築くために、勤労感謝の日には、嘱託医や消防署、タクシー会社などに子どもたちが行き、感謝の手紙や制作物を届けています。また、ハロウィンパレードの際には、地域の協力を得て行事を盛り上げています。また、地域の高校生の招待を受けて、ハンドベルを聴きに行くなどもしています。
- ・会社のホームページや横浜市のホームページに、園の特徴など必要な情報を掲載しています。落ち着いた環境で見学をするため、原則として月1回土曜日に、予約制で見学会を開催しています。通常の保育への影響や感染症予防への配慮から、平日の保育時間の見学のみお断りしています。
- ・「実習生・ボランティア受け入れについて」「保育実習の皆さんへ」を用意し、ボランティアや実習生に対して園の方針や利用者への配慮を十分に説明できるようにしています。

5、運営上の透明性の確保と継続性


- ・保育所としての自己評価は、ナーサリー事業本部共通の評価項目・様式を用いて行い、職員各人が行った自己評価結果をまとめ、保育所の自己評価結果として、ホームページで公表しています。
- ・就業規則中に、服務規律として、倫理・規範などを明文化しています。他の施設（社内の他施設も含む）でのさまざまな事例を入手した場合は、職員会議などで報告し、職員に周知・啓発しています。
- ・ゴミの分別を行っています。また、牛乳パックや段ボールなどを子どもたちが遊ぶ時の素材として利用したり、職員が入れ物や遊具などを手作りしたり、リサイクルに取り組んでいます。施設長が、毎月エコテーマを設定し、日々の保育の中で取り入れるよう職員を指導しています。また、地球環境保護と節電に取り組んでいることを園内に掲示し、保護者に周知しています。
- ・企業理念・教育目標を事務室に掲示し、職員が常に意識できるようにしています。
- ・重要事項が決定されたときは、職員会議などで目的・決定理由・経過などを説明しています。保護者には、掲示や文書で知らせるほか、必要に応じ、説明会を開いています。連絡帳をノート形式でなく、ITシステムを利用したWEB連絡帳に切り替える際には、保護者への説明会を開き、丁寧な対応をしています。
- ・主任は、日々現場に出て一人一人の職員の業務状況を把握し、一人一人の職員の能力や経験に合わせ、的確な助言や指導を行っています。気がついた場ですぐに伝えるか、後で個別に伝えるかなど、状況により適切な対応となるよう心がけています。
- ・事業運営に影響のある情報は、本社での施設長会議で得るほか、鶴見区園長会からも得ています。重要な情報は、幹部職員間で検討するほか、適宜、職員会議などで知らせています。
- ・保育所としての自己評価結果や、保護者アンケート（顧客満足度調査）の結果などを踏まえ、運営面での改善に努めています。

6、職員の資質向上の促進


- ・目標管理制度（Job Description）を導入し、人材育成を図っています。目標管理制度では、一人一人の職員が、年度初め・中間期・12月末に施設長と面談し、目標設定と達成度評価を行っています。達成度評価における反省点などを踏まえ、次年度の自己目標設定をしています。
- ・本社主催の新人研修・職位別研修・職種別研修や、横浜市や鶴見区などが行う研修に、必要な職員が参加しています。研修に参加した職員は、研修報告書を作成するとともに、職員会議で内容を発表しています。研修報告書は、研修で得た知識や情報を、日々の保育の中でどのように実施していくかの予定なども記入するようになっています。一定期間（3ヶ月くらい）経過後、実施状況の評価・コメントを施設長が書き入れています。

- ・日々の保育の中で、主任が必要に応じ、個々の非常勤職員に対し、実践教育訓練（OJT）を行っていますが、本社主催の研修や横浜市などが行う研修に、非常勤職員が参加することは少なく、資質向上への取り組みは課題となっています。例えば、非常勤職員全員に対する園内研修を実施するなど、できるところから取り組むことが望まれます。また、職員会議の決定事項などを、非常勤職員にも必ず伝達する体制を整備することも望まれます。
- ・研修などで、他園の工夫した良い事例を得た場合は、職員会議で報告し検討しています。
- ・保育の指導計画に関する自己評価は、計画で意図したねらいと関連付けて行い、子どもの意欲や取り組む姿勢がどうであったかなどを重視して行っています。指導計画に関する評価・反省を、次の週案・月間指導計画・年間指導計画の作成に反映させています。
- ・日常の保育や保護者との対応など、クラスの担当者が責任を持って対応するようにしています。判断に迷った時などは、主任・施設長に連絡・相談するよう指導しています。保護者との連絡は、WEB 連絡帳を用いているので、主任・施設長も内容を把握できます。良かった点や、連絡不十分や不適切な点などを、担当者に伝えています。
- ・会議の場だけでなく、いつでも、主任や施設長に改善提案や意見を述べるができるようにしています。

分類別評価結果

- ※ 横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。
- ※  ←「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。
3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある
- ※ 評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業理念は、「最高水準のエデュケア（*）と介護サービスで社会に貢献します」です。理念に基づき、教育目標を「人生で最も重要な時期の人間教育を目指します。1. 寛容な人間 2. 聡明で愛情深い人間 3. 探求心の強い人間 4. グローバル社会で活躍できる人間」としています。エデュケアの理念を実践していくために、ポピンズアプローチという手法で、子どもの成長を支援しています。 （*）エデュケアとは、エデュケーション（教育）とケア（保育）を組み合わせた言葉です。 ・本社主催のさまざまな研修の折に、企業理念・教育目標を職員に伝えています。 ・保育課程は、子どもの最善の利益を第一義とし、教育方針や、外国籍の子どもが多いことなど地域の状況を考慮して作成しています。 ・年度初めのクラス懇談会で、年間指導計画などの説明を保護者に対して行っています。今後は、在園児の保護者も含めて、保育課程を入園時や年度初めに説明することが望まれます。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しています。年間指導計画中には、教育目標4項目を、年齢に合わせてどのように展開していくかを記載しています。 ・指導計画は、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるよう配慮し作成しています。子どもの様子や状況に応じて、その日の活動を変更したり、週案・月間指導計画を見直したり、柔軟に対応しています。 ・職員は、日々の活動の中で、子どもの態度・表情・仕草などから、興味や関心を汲み取るようにしています。また、言葉で自分の思いを伝えることができる子どもからは、丁寧に聞き取るようにしています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1)入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2)新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

- ・入園前に保護者と面談しています。あらかじめ保護者に、入園までの子どもの生育歴や家庭での状況などを所定の書類に記入してもらい、面談の際にそれを確認しながら、さらに詳しく聞き取っています。保護者から提供された資料や、面談時の記録は、個人別にファイルし、事務室の決められた書庫に保管しています。
- ・保護者との面談の際に、子どもが遊具で遊んでいる様子を複数の職員で観察し、発達状況やコミュニケーションレベルを把握しています。
- ・短縮保育（ならし保育）は、保護者と話し合い、個別に対応しています。
- ・0、1歳の新入園児に対し、個別に主担当保育士を決めてはませんが、入園当初は看護師・栄養士・主任なども関わり、子どもが落ち着いて過ごせるようにしています。
- ・保護者との日々の連絡は、ノート形式ではなく、ITシステムを利用したWEB連絡帳で行っています。
- ・在園児が進級する際の配慮として、担任のうち一人はできるだけ持ち上がりとなるように配慮しています。また、年度末の3月頃から、4月から予定されている担任が、適宜クラスの手伝いに入る機会を設けています。進級時に、保育室が変わる場合には、3月頃から、子どもたちが新しい部屋で過ごす時間を設けています。
- ・子どもの発達や状況に応じ、月間指導計画・週案を、クラスごとに作成・評価・見直しを行い、主任が最終確認しています。見直しにあたっては、朝夕送迎時などで伝えられた保護者の要望などを配慮するようにしています。

I-3 快適な施設環境の確保



- (1)子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。
- (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・マニュアルに基づいて日々清掃を行い、チェック表で確認しています。各保育室に、加湿機能付き空気清浄機を設置するとともに、活動内容や時間帯に応じて、室内温度をこまめに調整しています。
- ・2・3歳児クラスは、同じ保育室を使用しているため、クラスの音が、他クラスの活動の妨げにならないよう配慮しています。活動内容によっては、ホールを使用することもあります。また、2・3歳児室と4・5歳児室の間の仕切りの一部は、上部が開いて音が通じるので、それぞれのクラス活動への配慮を同様に行っています。
- ・0・1歳児用トイレ内に、沐浴設備を設置し、乳幼児用トイレ内に、温水シャワーを備えています。沐浴設備・温水シャワー設備は、常に清潔に保つようにしています。
- ・小さな衝立や可動式の棚などを用いてコーナーを作るなど、子どもが落ち着いて遊べるよう工夫しています。
- ・0～3歳児は、昼食をホールで摂っています。4・5歳児クラスは、保育室内でバイキング形式の昼食を摂り、終了後清掃を行い、午睡の場所としています。ホールは、昼食の場だけでなく、全園児が集まる朝の集いや、月1回の誕生日会などにも使われ、異年齢児間交流の場となっています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1) 子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合った個別指導計画を作成しているか。
- (2) 子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。


- ・乳児は、毎月個別指導計画を作成しています。幼児は、特に配慮や支援が必要な子どもについて、個別指導計画を作成しています。
- ・個別指導計画は、定期的な見直し以外にも、子どもの状況に大きな変化などがあった場合には、月の途中でも変更・見直しをしています。離乳食やトイレトレーニングの開始時期など、保護者と話し合い、個別指導計画に反映させています。
- ・子どもや家庭の個別の状況・要望、子どもの成長発達記録を作成しています。個人別にファイルし、決められた書庫に保管、全職員が必要なときに見ることができるようにしています。
- ・進級時には、重要な申し送り事項を書類で連絡しています。また、年度末ミーティングなど、新体制準備期間を設け、旧担任と新任が話し合う時間を十分に確保しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- (1) 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2) 障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3) 虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4) アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。
- (5) 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- ・特に配慮を要する子どもや支援を要する子ども一人一人について会議で話し合い、記録しています。
- ・職員は、特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもの保育に関する研修に参加しています。参加した職員は報告書を作成するとともに、職員会議で発表し、全職員が情報を共有できるようにしています。
- ・門から玄関までの階段脇にスロープを設けるほか、車椅子用段差解消機（昇降機）を設置し、大人用トイレは車椅子利用者も使える構造にするなど、バリアフリーに配慮しています。
- ・障がいの特性を考慮した個別指導計画を作成しています。また、保護者の同意を得て、横浜市東部地域療育センターや鶴見区こども家庭支援課から、助言や情報を得ることができる体制があります。
- ・虐待の定義は、研修や職員会議で全職員に周知しています。虐待が明白になった場合や、虐待が心配されたり見守りが必要な場合には、鶴見区こども家庭支援課に通告・連絡し、連携して取り組むこととしています。
- ・職員は、朝夕の送迎時に、保護者と会話するよう心がけています。保護者の様子などで気になることがあれば、主任や施設長に連絡することとしています。
- ・アレルギー疾患に関するマニュアルを定め、研修を通じて、必要な知識や情報を職員に周知しています。
- ・除去食を提供する場合は、調理室から受け取る際に、栄養士と保育士間で、必ず目視・指差確認を行い、配膳直前にも職員同士でチェックをしています。除去食を乗せるトレーは他の子どもたちとは色の違うものを用い、乳児はエプロンの色も変えています。トレーには名前・除去食材などを書いた札をつけています。また、子どもは別テーブルについてもらい、職員が傍につくことにしています。付き添う職員は、他の職員と違う色のエプロンを使用し、目で見て分かるよう配慮しています。
- ・文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重しています。例えば、宗教上の理由などによる除去食の対応も

	<p>しています。また、「バイリンガルレッスン」(英語の時間)を行い、給食で世界の料理を提供するなど、文化や生活習慣が違う国や地域があることを子どもたちが理解できるようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語によるコミュニケーションが不得手な子どもに対し、絵カードや翻訳アプリなどを活用して対応しています。また、保護者に対しては、ポピンズニュースレター(園だより)やお知らせを、保護者が理解できる言語(英語など)に翻訳しています。
<p>I-6 苦情解決体制</p>  <p>(1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。</p> <p>(2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 苦情解決規程を定めています。苦情受付担当者は主任保育士、苦情解決責任者は施設長であることや、第三者委員に直接苦情を申し立てできることを重要事項説明書に記載するほか、苦情解決体制の概要をフローチャート形式で表し、園内に掲示し、保護者に周知しています。 意見箱を設置しているほか、毎年12月に全保護者に対し顧客満足度調査を行っています。また、クラス懇談会などでも要望や意見を聞いています。さらに、運営委員会(年2回)でも、保護者代表から要望や意見を聞いています。 要望・苦情があった場合は、リーダー会議や職員会議で、解決策とともに報告しています。また、これまでの苦情に対する対応・解決策は、是正措置記録としてまとめ、業務改善に活かしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>Ⅱ-1 保育内容[遊び]</p>  <p>(1)子どもが主体的に活動できる環境構成(おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど)ができているか。</p> <p>(2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p>(3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p>(4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p>(5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p>(6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中</p>	<ul style="list-style-type: none"> 0歳児クラスを含む全クラスで、子どもが玩具や絵本を取り出して遊べるような保育環境を設定しています。玩具類は子どもの目の高さの棚に置き、子どもが玩具類を取り出しやすいように、整理しています。 0、1歳児クラスは、ほふくすることや、転倒時の安全を考慮してジョイント式のカーペットを敷いています。2歳児クラス以上では、クッション性のある床材を使用しています。 朝や夕方の中には、子どもが自分の好きなことをして遊べる時間を確保しています。玩具類は、主任と担任で検討をして、誤飲など危険のないものを取り入れています。ビーズ通しなど手指を使って遊ぶ玩具や、ブロックやおままごとなど想像力を育む玩具、職員が手作りした玩具などで遊ぶ様子が見られました。 アトリエという部屋を用意して、多数の玩具や素材、楽器、図鑑などを置き、子どもたちの好奇心を刺激しています。 一斉活動やルールのある遊びとして、リトミックやごっこ遊び、ゲーム、ボール遊び、縄跳び、プール遊び、制作などを年齢や発達に合わせて取り入れています。プール遊びでは、ルールを説明してから開始している様子が見られました。 カブトムシや金魚を飼育しています。カブトムシを見て、気付き

でなされているか。

- たことを紙に書いて発表するなど、保育活動にフィードバックしています。金魚には当番がえさをあげています。
- ・桜の季節には近隣に花見に行ったり、秋には電車に乗って幼児が芋ほりに行くなど、四季を感じることができる活動（アドベンチャープログラム）も行っています。
 - ・子どもたちに提供する教育・保育を「エデュケア」と会社全体で名付け、「エデュケアプログラム」を通して子どもの8つの知力「知力8（エイト）」を伸ばすプログラムの実践を目指しています。毎日設定されるエデュケアプログラムの時間には、自然科学や言語、音楽、空間構成、身体運動などさまざまな活動を計画的に取り入れています。歌やリトミック、絵画、英語、運動などを積極的に行い、絵画は、施設長が子どもに教えていて、0歳児クラスから地域の展覧会に出品しています。「バイリンガルレッスン」という英語の時間を設けて、月1～2回、全クラスの子どもたちが専任講師による生の英語に触れ合える機会を持っています。
 - ・異年齢の子ども同士が関わりを持てるように、さまざまな機会を用意しています。朝夕の時間や土曜日には、異年齢の合同保育を行い、朝の集まりでは、全クラスの子どもたちがホールに集合して歌を歌ったり、当番の発表をしています。また、2、3歳児クラスと4、5歳児クラスの保育室は一つの空間を共有しているため、日常的に交流の機会があります。その他に、異年齢の子どもと一緒に散歩に行ったり、年度末になると、5歳児クラスの子どもが乳児クラスの手伝いに行くこともあります。クリスマス会に向けて、ツリーの飾りつけを全クラスで行うこともしています。
 - ・発達段階に応じて運動能力を高められるように、全てのクラスでリトミックを行うほか、運動カリキュラムの強化を行っています。乳児クラスではスキンシップを取りながら運動遊びができるようにしています。幼児クラスでは、マット運動や平均台、鉄棒、トンネル遊び、ゴムヒモ遊びなど発達段階に応じた運動カリキュラムを、週1～2回計画して行っています。冬場には近隣の公園でマラソンもしています。

Ⅱ－1 保育内容[生活]



- (7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。

- ・子どもが残さず食べることを強制したり、叱ったりしないように、食事の時間にゆとりを持ち、食事が楽しくなる声かけをしています。4、5歳児クラスではバイキング形式を取り入れています。子どもたちは見本を参考にしながら、自分が食べられる量をよそっていました。
- ・子どもたちが食事及びその過程に関心を持つことができるように「年間食育活動計画」を立てています。行事食や他国の料理、郷土料理の予定を立て、三色食品群の説明などを行っています。ゴーヤーなど食材に触れる企画や、クッキングの計画を0歳児クラスから取り入れており、おにぎり作り、うどん作り、豆腐作り、カップケーキ作りなど、楽しい企画を行っています。
- ・子どもの年齢や発達に合わせて、食器や食具の種類を用意して使い分けています。箸の指導は3歳児クラスから開始しています。

(12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- 2歳児クラスの後半から、箸でスポンジをつかむ遊びを取り入れるなど、栄養士も関わりながら箸の持ち方を指導しています。
- ・「給食日誌」に、その日の食事観察の結果や反省、個別対応の記録を残して、食事に反映させています。また、月1回行う職員会議では各クラスの食事の状況を確認して共有しています。
- ・毎月、ポピンズニュースレター（園だより）を発行し、ポピンズシステム（ITシステム）を通して提供しているほか、園内に掲示しています。その中に栄養士コラムを設けて、その月に提供する郷土料理や他国料理、行事食等の説明をしています。また、毎月、おすすめメニューのレシピを保護者に提供しています。
- ・開園した初年度は、全学年で試食会を行いました。現在は、試食会の開催を課題としており、試食会の機会について検討を重ねています。
- ・SIDS（乳幼児突然死症候群）の対策として、乳児クラスでは5分おきに呼吸チェックを行い、記録に残しています。幼児クラスでも15分おきに実施しています。チェックの際には、子どもの身体の向きを矢印で記して記録し、乳児クラスでは、子どもに触れて確認をしています。
- ・5歳児クラスの午睡については、子どもの成長や体力に合わせ、年度後半より徐々に減らしていくこととしています。午睡を行っていた時間を活用して、迷路遊びで線を書く練習や、平仮名などの学習、絵画や制作、縄跳びなど、就学を意識した取り組みをしています。
- ・トイレトレーニングは、急がせないことに注意しながら、個別に対応しています。0歳児クラスの後半から、子どもの興味に合わせてトイレに座ってみる体験をしています。排泄の間隔が長くなっていく時期を捉えて、2歳児クラスから開始しています。

Ⅱ - 2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- (1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- ・「保健業務マニュアル」を整備し、健康管理や症状への対応、事故やケガへの対応、感染症の対応、与薬管理、SIDS（乳幼児突然死症候群）の予防対策などの手順を定めて、子ども一人一人の健康状態を把握しています。「重要事項説明書」に保健衛生について掲載し、保護者に知らせています。
- ・歯磨き指導について、0、1歳児クラスで歯磨きの映像をみるところから始めています。1歳の誕生日から歯ブラシを持参することとし、2歳児クラスからは自分で磨く練習をはじめています。3歳児クラスになると、赤染めの体験をしています。
- ・毎月の身体測定、年2回の健康診断、歯科健診などの健診結果を、「健康診断票」に残しています。毎週月曜日に爪のチェックを行っています。また、毎月看護師が頭髪チェックを行い、アタマジラミの予防に取り組んでいます。
- ・保育中に感染症が疑われる状態になった場合は、速やかに保護者に連絡し、迎えに来るまでの間、別室で看護師等が付き添い、休むことができるようにしています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



(4)衛生管理が適切に行われているか。

- ・衛生管理に関するマニュアルの内容を全職員で共有するため、マニュアルを部分的に取り上げて、職員会議で嘔吐処理の方法などを、看護師が職員に指導しています。子どもに対しては、咳をする時のエチケットや手洗い指導などを行っています。
- ・マニュアルに沿って清掃が行われるように、「衛生チェック表」を活用しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



(5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。

(6)事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。

(7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・「安全管理マニュアル」「安全チェックリスト」を整備し、緊急連絡体制や大規模災害マニュアル、災害対策マニュアル、消防計画、園庭遊びマニュアル、散歩マニュアル、危険事例などを明確にしています。
- ・月1回避難訓練を実施しています。地震や火災、水害の訓練を朝、午睡時、降園時、予告無しなど様々な場合を想定して行っています。また、警備会社の通報システムのテストを月1回実施しています。子どもたちへの防災教育として、プロジェクターを使用して「おかしも（おさない、かけない、しゃべらない、もどらない）」の話をするなど取り組んでいます。
- ・各保育室に EMERGENCY CARD を掲示し、緊急時に速やかに対応できるように周知しています。提携医や救急病院、中毒110番、本部の電話番号なども掲示し、緊急連絡体制を確立しています。入園時に保護者の緊急連絡先を把握しています。また、緊急連絡安否システムを活用できるように、メールアドレスの登録を促すとともに、月1回アドレスに変更がないか確認をしています。
- ・救急救命法の研修を職員が受講しています。新入職員は4～5月に消防署で受講し、8月頃には講師を園に招き、半日かけて園内研修を全職員に向け実施しています。その様子を、園内に掲示するなど、保護者に伝えています。
- ・子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告し、「保育日誌」や「アクシデントレポート」に記録しています。
- ・正門のインターホンで来訪者を確認してから解錠する仕組みになっていて、不審者等の侵入防止策を講じています。同時に、正門が閉まったことを確認してからエントランスのドアを空けるように努めています。

Ⅱ－３ 人権の尊重




(1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。



(2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。

(3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。


- ・人権の尊重について意識を高めるために、本社が行う宿泊研修や鶴見区が行う研修に職員が参加しています。毎日の日誌を通して振り返りを行い、職員会議でお互いの言動を振り返ったり、日常のなかで気になる言葉遣いなどがあれば、主任が直接職員を指導しています。
- ・必要に応じて、子どもに威圧感を与えず一対一で話し合える場所として、ホールやアトリエ、応接室などの別室、事務室を使用しています。
- ・守秘義務については、全職員と誓約書を交わしています。保護者に対して、「入園申込書」や「重要事項説明書」を通して、守秘義務、個人情報の利用目的、写真等の取り扱いについて周知して、



<p>(4)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。</p>	<p>同意書を得ています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや行事の役割、持ち物の色、服装などで性別による区別をしていません。
<p>Ⅱ-4 保護者との交流・連携</p>  <p>(1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。</p> <p>(2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。</p> <p>(3)保護者の相談に応じているか。</p> <p>(4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。</p> <p>(5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。</p> <p>(6)保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポピンズナーサリースクールが提唱する「エデュケア」や「知力8（エイト）」について、入園時の説明会や懇談会、個別面談、毎月発行するポピンズニュースレター（園だより）などを通して、保護者に伝えています。 ・WEB 連絡帳を用いて保護者と情報交換をしています。登園前に保護者がスマートフォン等を通して連絡事項を入力すると、担任が園のタブレットを通して確認できるようになっています。園からの連絡事項も、このシステムを用いて伝達しています。 ・個別面談を年1回、全ての家庭に対して行っています。事前に質問を確認しておき、その内容に応じて、担任以外に、施設長、主任、看護師、栄養士などが同席できるように準備して、2名体制で対応できるようにしています。 ・懇談会は、年2回、園全体と各クラスで実施しています。6月の懇談会は、担任紹介や自己紹介、新しい環境の中での生活の様子やプールの説明を行っています。2月の懇談会は、クラス全体の様子や、進級・就学に向けた説明などを行っています。写真を用いて子どもたちの様子を紹介するクラスもあります。 ・他の人に聞かれることなく保護者が相談できるように、応接室を利用できるように配慮しています。 ・行事の写真を玄関に掲示するなど、最新の情報が保護者に伝わるように努力しています。写真販売は、外部業者に委託して、インターネット販売を行っています。毎月、最新の写真に更新して販売しています。 ・食育イベントや制作などの時に保育参加を受け入れています。また、ハロウィンパーティーでは保護者が仮装をして参加したり、クラシックの生演奏を楽しむニューイヤーコンサートなどにも保護者が参加できるようにしています。また、「敬老お茶会」を企画し、園児の祖父母を招いています。 ・年2回運営委員会を開催しています。運営委員会には運営委員である保護者の代表1名が参加して、園とコミュニケーションを取っています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との意見交換や園長会や、地域子育てイベントに向けた検討会、地域年長保育園の交流会などを通して、地域の子育て支援ニーズを把握しています。 ・未就園児を対象とした地域の子育て支援イベントに参加し相談を受けるなどして、地域の子育て支援ニーズを把握しています。また、月1回行う見学会の際に相談を受けていますが、相談事業を行うことは課題となっています。 ・地域の子育て支援ニーズについて、職員会議などで情報の共有をしています。 ・開設3年目であり、地域子育て支援のためのサービスや育児講習を実施することを課題としています。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。 (2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会社のホームページや横浜市のホームページを通して、園の情報を外部に提供しています。 ・月1回の見学を利用して、育児相談を受け入れていますが、週1回以上相談日を設けることは課題となっています。 ・横浜市東部地域療育センターや鶴見区こども家庭支援課と、日常的な連携を図っています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1)保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と友好的な関係を築くために、勤労感謝の日には、嘱託医や消防署、タクシー会社などに子どもたちが行き、感謝の手紙や制作物を届けています。また、ハロウィンパレードの際には、地域の協力を得て行事を盛り上げています。また、地域の高校生の招待を受けて、ハンドベルを聴きに行くなどもしています。 ・地域の施設活用として、近隣の図書館に、絵本を借りに行くなどしています。図書館の職員が来園して、子どもたちにはわらべ歌や絵本の読み聞かせを行い、職員に対しては、絵本の選び方講座などを実施しています。 ・地域への施設開放や備品の貸し出しは行っていません。 ・幼保小教育連携事業を通して、前年度は、小学1年生と、5歳児クラスが給食交流を行いました。地域の年長の園児が集まる年長交流会に参加してドッチボールをしたり、系列園7園で行うサッカー大会に参加するなどして、子ども同士の交流を図っています。


<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会社のホームページや横浜市のホームページに、園の特徴や詳細など必要な情報を掲載しています。 ・問い合わせには、受付の職員が対応できるようにしています。見学の際には、A4サイズ三つ折のパンフレットを用意して、施設長や主任が説明を行っています。 ・落ち着いた環境で見学をするため、原則として月1回土曜日に、予約制で見学会を開催しています。通常の保育への影響や感染症予防への配慮から、平日の保育時間の見学はお断りしています。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。 (2)実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「実習生・ボランティア受け入れについて」「保育実習の皆さんへ」を用意し、ボランティアや実習生に対して園の方針や利用者への配慮を十分に説明できるようにしています。 ・実習目的に応じた効果的な実習が行われるために、本部で実習プログラムを作成しています。 ・「体験学習レポート」などを用意し、ボランティアの感想や意見を書面に残せるようにしています。ただし、ボランティアの希望者が少なく、ボランティアの感想や意見を園の運営に反映するのが難しい状況となっています。 ・実習生の受け入れ実績はまだありませんが、実習生を受け入れる体制は整備しています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅴ－１ 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標管理制度（Job Description）を導入し、人材育成を図っています。目標管理制度では、一人一人の職員が、年度初め・中間期・12月末に施設長と面談し、目標設定と達成度評価を行っています。達成度評価における反省点などを踏まえ、次年度の自己目標設定をしています。 ・本社主催の新人研修・職位別研修・職種別研修や、横浜市や鶴見区などが行う研修に、必要な職員が参加しています。研修に参加した職員は、研修報告書を作成するとともに、職員会議で内容を発表しています。研修報告書は、研修で得た知識や情報を、日々の保育の中でどのように実施していくかの予定なども記入するようになっていました。一定期間（3ヶ月くらい）経過後、実施状況の評価・コメントを施設長が書き入れています。 ・正職員に対する園内研修を行っていますが、主にマニュアルの読み合わせや内容の確認の場となっています。今後は、保育技術の向上を目指したテーマも取り入れることが望まれます。 ・日々の保育の中で、主任が必要に応じ、個々の非常勤職員に対し、実践教育訓練（OJT）を行っています。しかし、本社主催の研修や横浜市などが行う研修に、非常勤職員が参加することは少なく、資質向上への取り組みは今後の課題です。例えば、非常勤職員全員に対する園内

	<p>研修を実施するなど、できることから取り組むことが望めます。また、職員会議の決定事項などを、非常勤職員にも必ず伝達する体制を整備することも望めます。</p>
<p>V-2 職員の技術の向上</p>  <p>(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。 (2)保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。 (3)保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修などで、他園の工夫した良い事例を得た場合は、職員会議で報告し検討しています。 ・横浜市東部地域療育センターから、特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもの保育に関し、指導や助言を受けています。 ・保育の指導計画に関する自己評価は、計画で意図したねらいと関連付けて行い、子どもの意欲や取り組む姿勢がどうであったかなどを重視して行っています。指導計画に関する評価・反省を、次の週案・月間指導計画・年間指導計画の作成に反映させています。 ・保育所としての自己評価は、ナーサリ事業本部共通の評価項目・様式を用いて行い、職員各人が行った自己評価結果をまとめ、保育所の自己評価結果として、ホームページで公表しています。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p>  <p>(1)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標管理制度（Job Description）の一環として、経験年数・職位・職種に応じた役割・期待水準を定めています。 ・日常の保育や保護者との対応など、クラスの担当者が責任を持って対応するようにしています。判断に迷った時などは、主任・施設長に連絡・相談するよう指導しています。保護者との連絡は、WEB連絡帳を用いているので、主任・施設長も内容を把握できます。良かった点や、連絡不十分や不適切な点などを、担当者に伝えています。 ・会議の場だけでなく、いつでも、主任や施設長に改善提案や意見を述べるようにしています。 ・施設長は、職員との個別面談やクラス面談を随時実施し、職員の満足度・要望などを把握しています。また、職員が自分の意見や要望を直接本社に伝えるシステムもあります。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p>  <p>(1)事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。 (2)サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則中に、服務規律として、倫理・規範などを明文化しています。他の施設（社内の他施設も含む）でのさまざまな事例を入手した場合は、職員会議などで報告し、職員に周知・啓発しています。 ・事業報告書を運営委員会で公表しているほか、保護者から要望があれば、閲覧できるようにしています。職員に対しては、新入社員研修や職位別研修などの際に、会社の運営方針や現状を伝えています。 ・ゴミの分別を行っています。また、牛乳パックや段ボールなどを子どもたちが遊ぶ時の素材として利用したり、職員が入れ物や遊具などを手作りしたり、リサイクルに取り組んでいます。 ・無駄な電灯をこまめに消すなど、省エネルギーに努めています。トイレの照明はセンサーを取り付け、利用する時のみ自動点灯するようにしています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長が、毎月エコテーマを設定し、日々の保育の中で取り入れるよう職員を指導しています。また、地球環境保護と節電に取り組んでいることを園内に掲示し、保護者に周知しています。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>  <p>(1)保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2)重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3)主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業理念・教育目標を事務室に掲示し、職員が常に意識できるようにしています。 ・施設長は、クラス懇談会に出席し、保護者と意見交換しています。また、保護者代表の運営委員とは、随時、意見交換しています。 ・重要事項が決定されたときは、職員会議などで目的・決定理由・経過などを説明しています。保護者には、掲示や文書で知らせるほか、必要に応じ、説明会を開いています。連絡帳をノート形式でなく、ITシステムを利用したWEB連絡帳に切り替える際には、保護者への説明会を開き、丁寧な対応をしています。 ・主任は、日々現場に出て一人一人の職員の業務状況を把握し、一人一人の職員の能力や経験に合わせ、的確な助言や指導を行っています。気がついた場ですぐに伝えるか、後で個別に伝えるかなど、状況により適切な対応となるよう心がけています。 ・主任は、職員に積極的に声をかけ、その日の職員の様子・状況を把握しています。また、勤務シフトの作成に際しては、それぞれの職員が精神的・肉体的に良好な状態で業務を遂行できるよう配慮しています。
<p>VI-3 効率的な運営</p>  <p>(1)外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に影響のある情報は、本社での施設長会議で得るほか、鶴見区園長会からも得ています。重要な情報は、幹部職員間で検討するほか、適宜、職員会議などで知らせています。 ・保育所としての自己評価結果や、保護者アンケート（顧客満足度調査）の結果などを踏まえ、運営面での改善に努めています。 ・本社が、中長期計画を作成しています。また、ナーサリー事業本部が、運営や新たなサービスの仕組みを考えています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2017年6月17日～6月30日
- 2、実施方法 ①保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
②各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 58.8%（51枚配付、30枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス…6人、1歳児クラス…7人、2歳児クラス…4人、3歳児クラス…5人、
4歳児クラス…5人、5歳児クラス…3人、無回答…0人

※ 同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

◆まとめ

・【問1】「園の保育目標や保育方針」について、回答した保護者の83%が、「よく知っている」「まあ知っている」と答え、その内の全員が、保育目標や保育方針について「賛同できる」「まあ賛同できる」としています。

・【問2】「入園する時の状況」の設問6項目のうち、保護者が「満足」と答えた割合が最も高ったのは“入園時の面接などで、子どもの様子や生育歴などを聞く対応”で、83%となっています。なお、“費用やきまりに関する説明”では、「どちらかといえば不満」の回答が10%とやや多くなっています。

・【問3】～【問7】の設問では、31項目中、多くの項目で「満足」の回答が70%を超えています。そのうち、80%以上の項目は、次の4項目です。

問4	「日常の保育内容（生活）」	“保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応”	87%	
問4	同	上	“給食の献立内容”	80%
問4	同	上	“子どもの体調への気配り”	80%
問7	「職員の対応」	“子どもが保育園生活を楽しんでいるか”	80%	

・【問3】～【問7】の設問で、31項目中、「不満」「どちらかといえば不満」の回答は、0～10%と少ないですが、10%を超えているのは、次の2項目です。

問5	「保育園の快適さや安全対策」	“外部からの不審者侵入を防ぐ対策”	13%	
問5	同	上	“施設設備について”	10%

・【問8】の総合満足度は、「満足」が83.3%、「どちらかといえば満足」が16.7%であり、合わせて100%と高い評価となっています。

・自由記述欄には、「子どもが毎日楽しそうにしている」「職員はどんなことでも親切に聞いてくれ、対応も良い」などの声があります。一方、「園庭があると良い」「自転車の置き場を作って欲しい」「不審者侵入防止対策をしているが、完全ではない気がする」などの意見があります。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間：2017年6月17日～6月30日

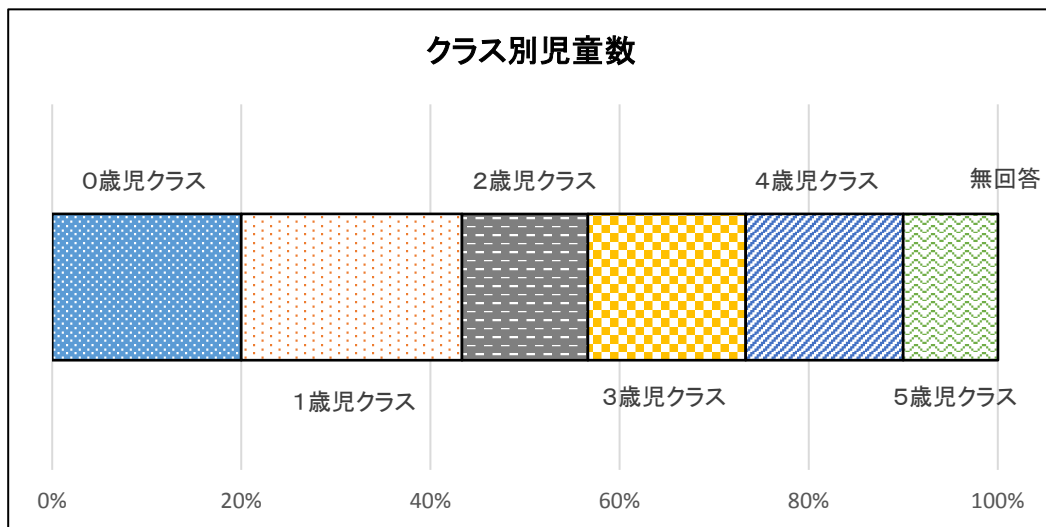
回収率：58.8%（回収30枚／配付51枚）

【属性】

クラス別児童数 (人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
30	6	7	4	5	5	3	0

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

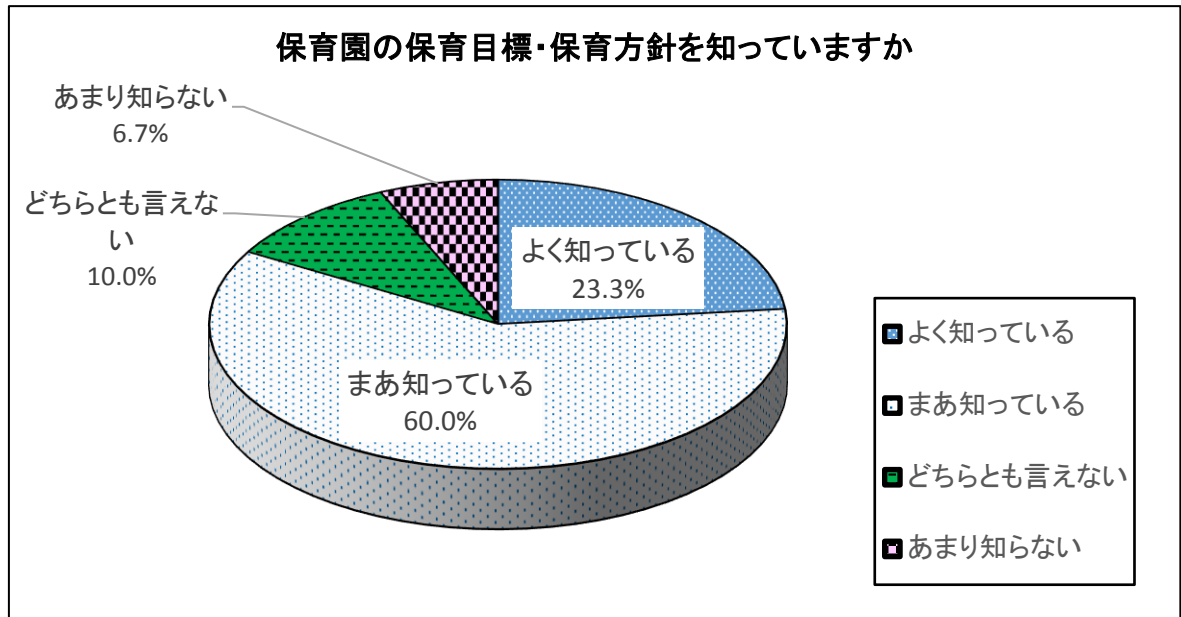


■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標・保育方針を知っていますか。

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	23.3%	60.0%	10.0%	6.7%	0.0%	0.0%	100.0%

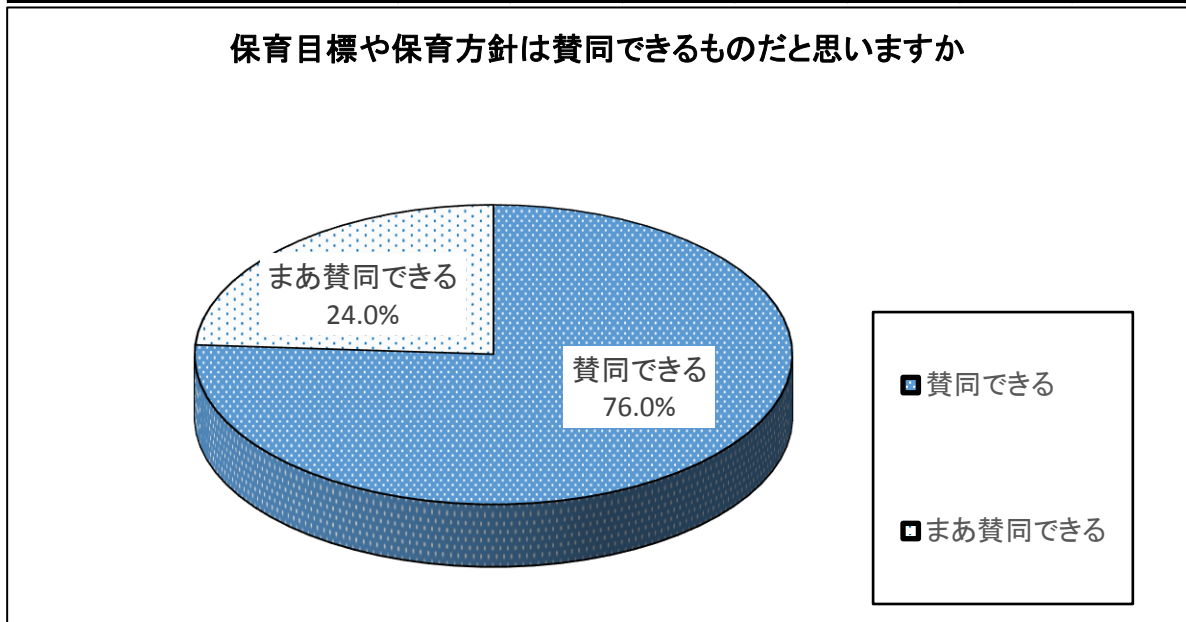
(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	76.0%	24.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

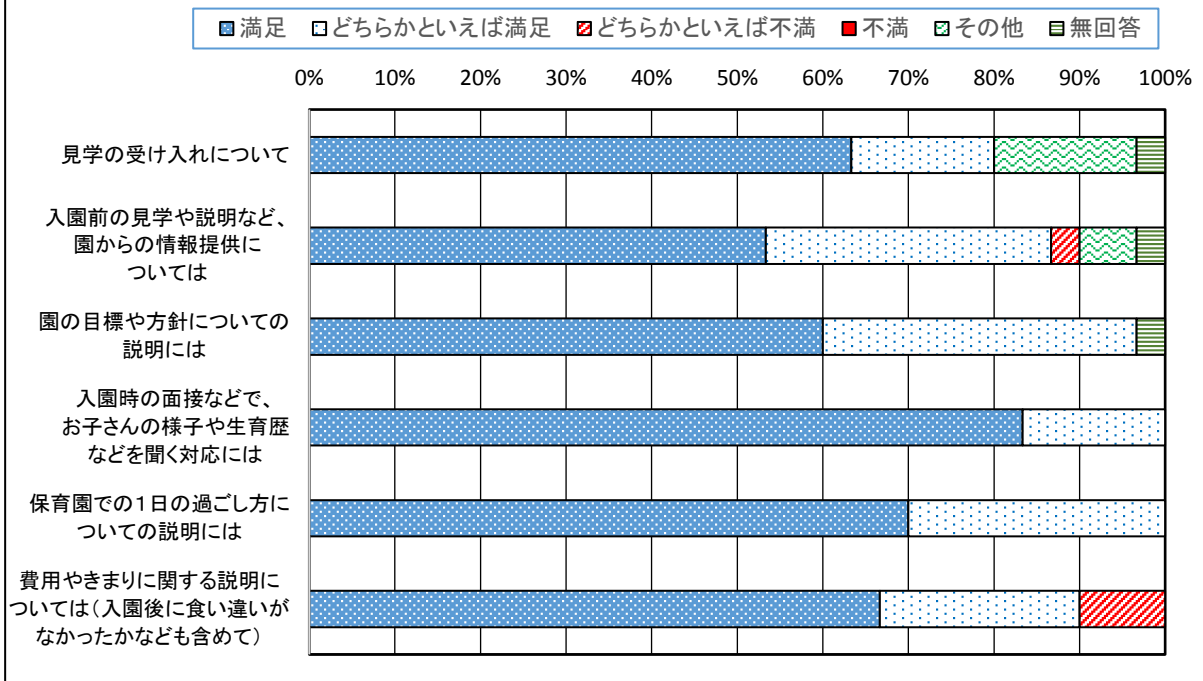


■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	63.3%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	3.3%	100.0%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	53.3%	33.3%	3.3%	0.0%	6.7%	3.3%	100.0%
園の目標や方針についての説明には	60.0%	36.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	100.0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	66.7%	23.3%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

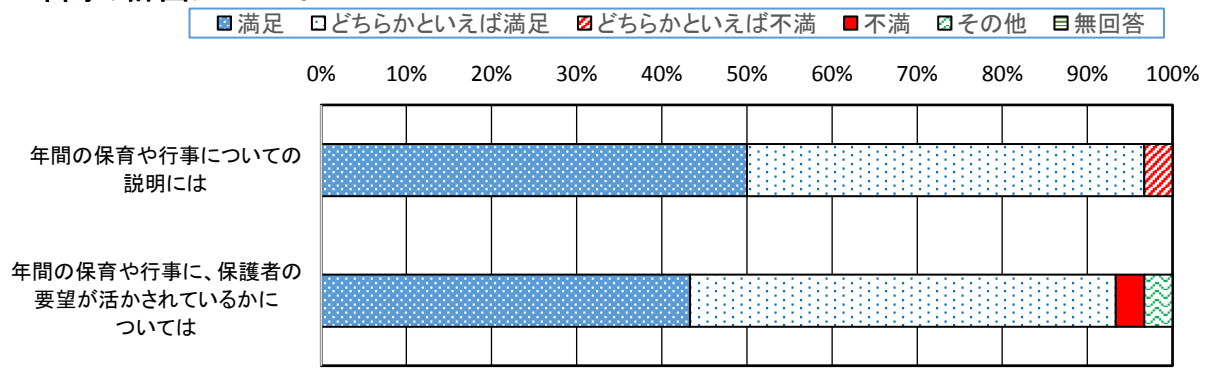
入園時の状況について



問3 保育園に関する年間の計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	50.0%	46.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	43.3%	50.0%	0.0%	3.3%	3.3%	0.0%	100.0%

年間の計画について

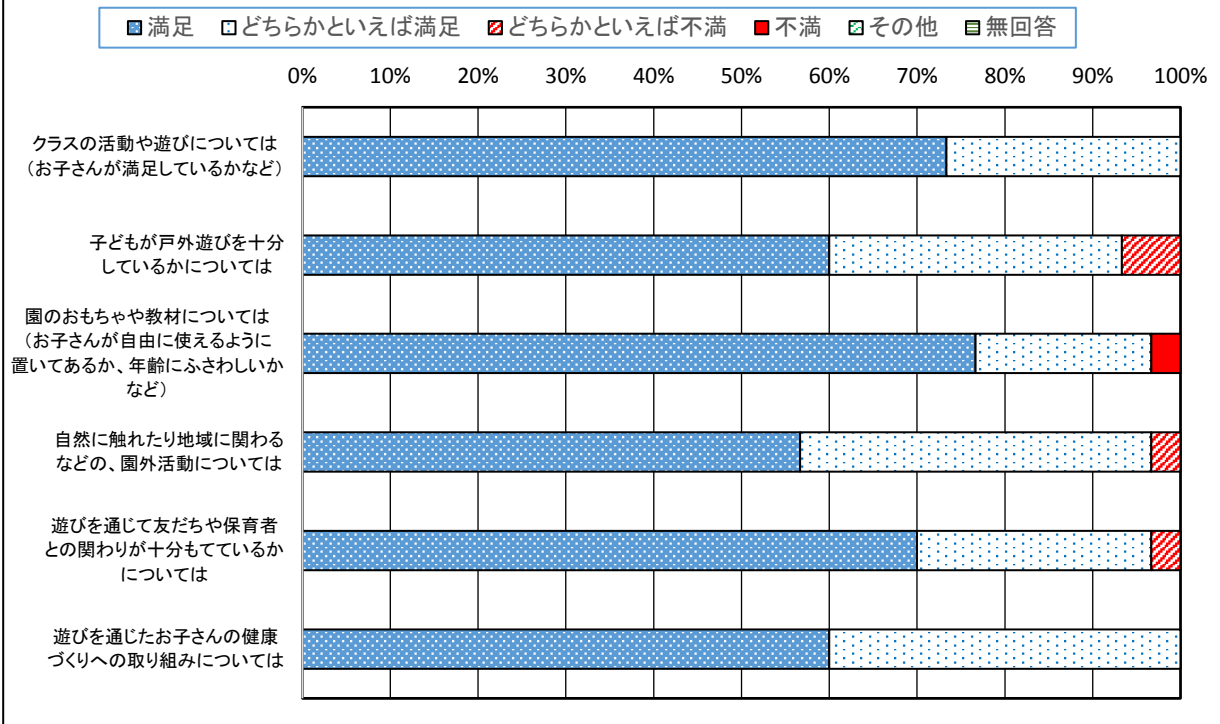


問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	60.0%	33.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	76.7%	20.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	100.0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	56.7%	40.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	70.0%	26.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

日常の保育内容「遊び」について



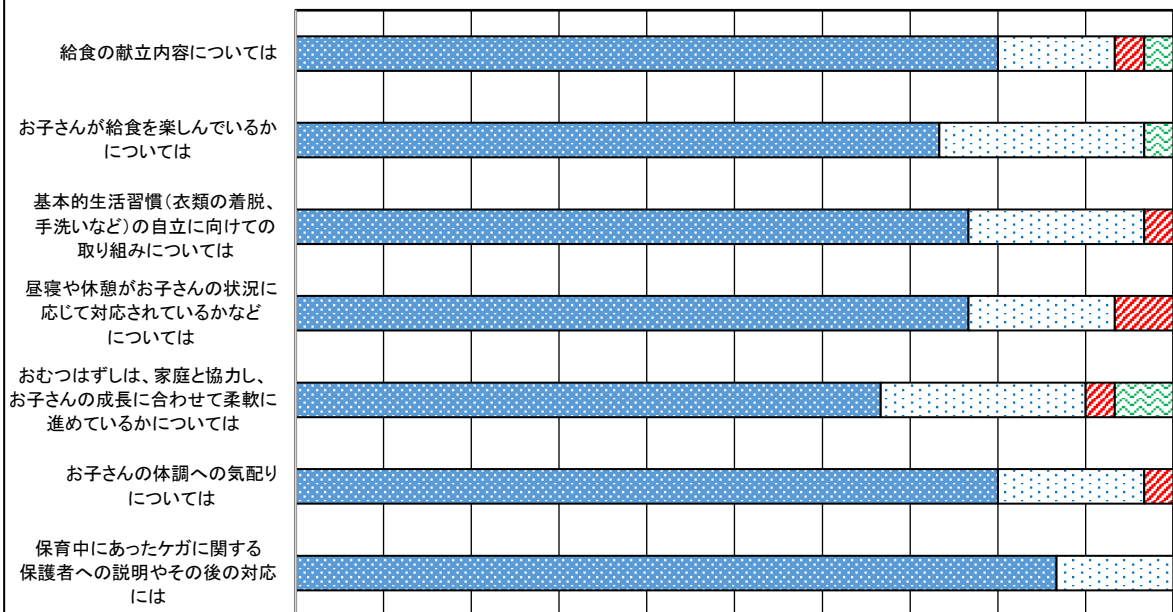
●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	80.0%	13.3%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%	100.0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	73.3%	23.3%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	100.0%
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	76.7%	20.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
屋寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	76.7%	16.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	66.7%	23.3%	3.3%	0.0%	6.7%	0.0%	100.0%
お子さんの体調への気配りについては	80.0%	16.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

日常の保育内容「生活」について

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ▨ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 ■ 無回答

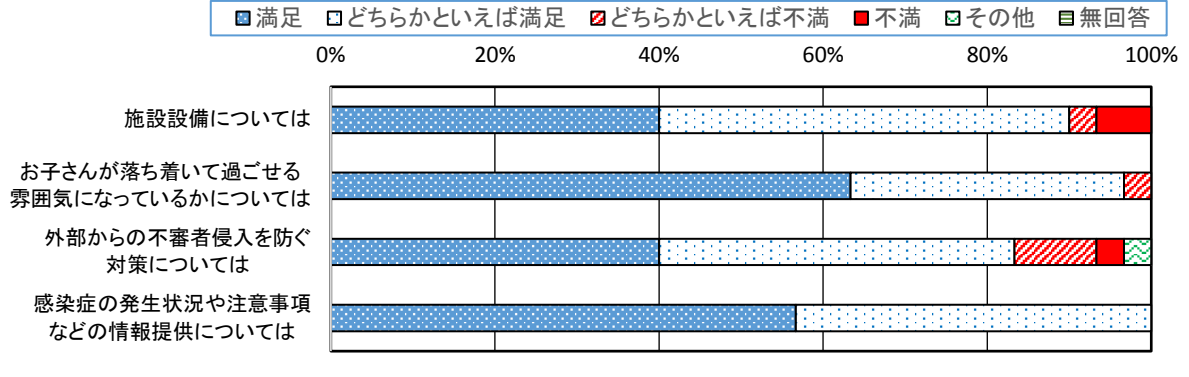
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	40.0%	50.0%	3.3%	6.7%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	63.3%	33.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	40.0%	43.3%	10.0%	3.3%	3.3%	0.0%	100.0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	56.7%	43.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

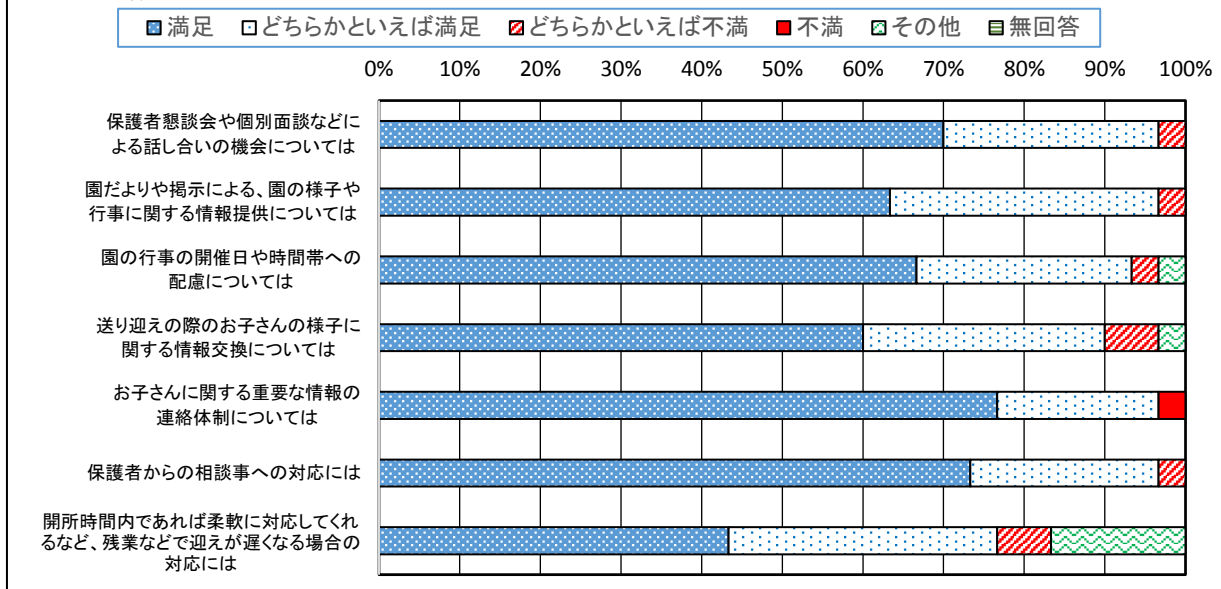
快適さや安全対策などについて



問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

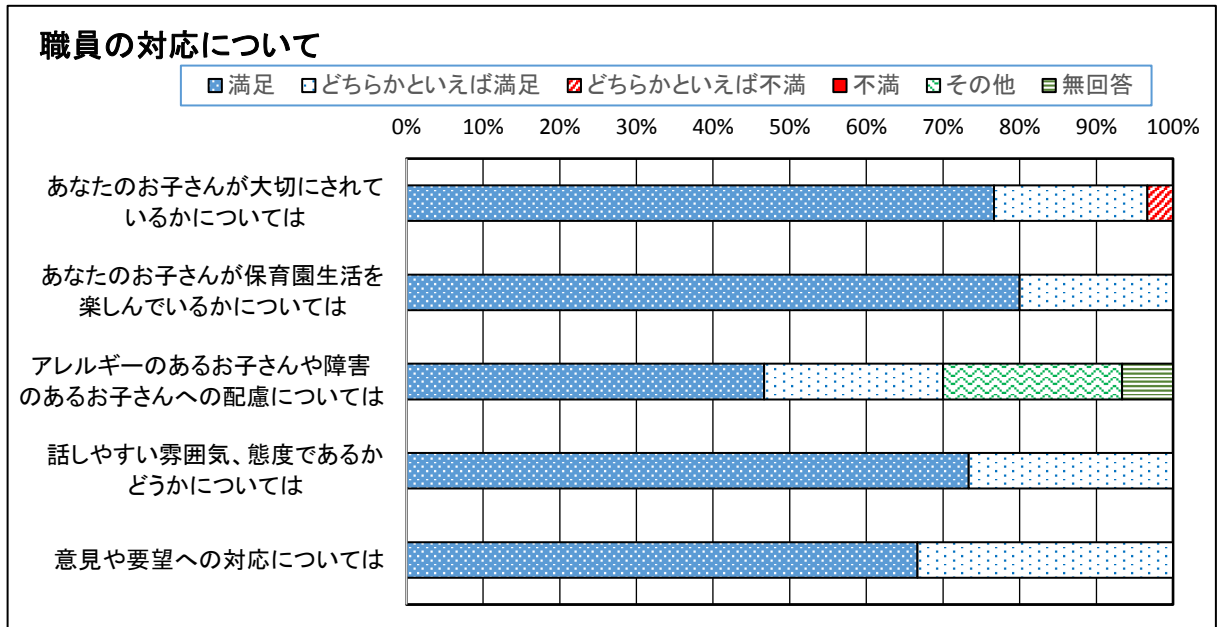
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	70.0%	26.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	63.3%	33.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	66.7%	26.7%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%	100.0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	60.0%	30.0%	6.7%	0.0%	3.3%	0.0%	100.0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	76.7%	20.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	100.0%
保護者からの相談事への対応には	73.3%	23.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	43.3%	33.3%	6.7%	0.0%	16.7%	0.0%	100.0%

園と保護者との連携・交流について



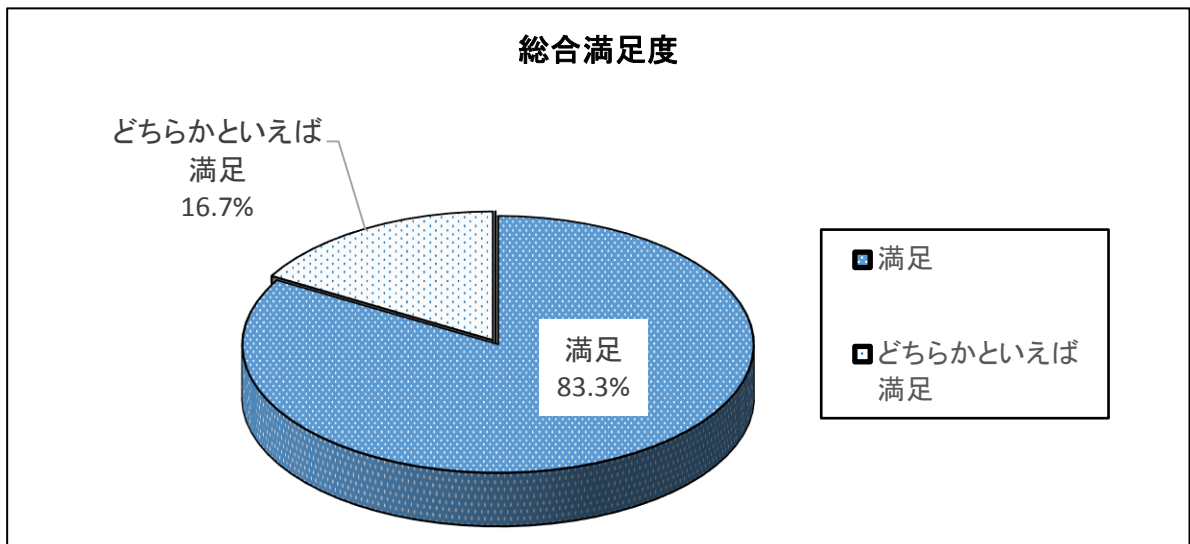
問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	76.7%	20.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	46.7%	23.3%	0.0%	0.0%	23.3%	6.7%	100.0%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
意見や要望への対応については	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



利用者（園児）本人調査 分析

◆ 観察調査 ①7月27日（木）9：10～12：30 ②8月2日（水）8：30～12：30

※ 観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

◆朝の集まり

毎日園児全員が揃って、ホールで朝の集まりを行っています。

全員が席につき、主任の電子ピアノに合わせて「レインボーソング」を歌いました。「足くっついていきますか」「足の裏と床、くっついていきますか」と主任が子ども全体に話しかけて、子どもたちの姿勢を正していきます。その後、全クラスの当番一人ずつ前に出てきました。「朝の会をはじめます」と挨拶をした後、「先生おはよう、みなさんおはよう♪」の歌に合わせて踊っている子どももいました。

主任が「今日のお天気は？」というとき、子どもたちは「くもり～、あめ～」と答えます。主任が「今日はレイニーデイです」と言い、雨の時の歌を「ロンドン橋」の曲に合わせて英語で歌いました。手を出したり広げたりして表現豊かに踊る子どももいました。

当番が一人ずつクラス名と名前を言っていきます。名前を自分で言うのが難しい乳児は、保育士が名前を呼び、手を上げていました。

その後、「フルーツサラダ」や「ジェリーフィッシュ（くらげ）」の歌を皆で歌います。「ジェリーフィッシュ」の歌では、数を数える要素も歌の中に組み込まれており、子どもたちは1、2、3と指を出しながら英語で歌っていました。

◆ 0歳児クラス（スノードロップ）

朝の集まりとおやつが終わると、一人ずつ抱っこされて保育室に戻ります。

保育室では、保育士がパペットを使い子どもたちに話しかけています。職員が手作りした玩具を棚から取り出して遊んでいる子どももいます。子どもが立ちあがろうとすると、保育士が「うわあ、すごいすごい」と優しく声を掛けていました。遊びの合間に一人ずつオムツ替えをしています。

園庭の水遊びで、子どもたちは、プールの外から手を入れて水をバシャバシャとしたり、バケツに水を汲んで運んだり、じょうろで遊んだりしています。バケツに水を入れて運ぶ子どもに「すごいね。重くないですか」と保育士が声を掛けると、子どもは得意気な顔をしていました。

保育室に戻ると、マットを出してその上でゴロゴロと寝返りをしました。眠くなってしまった子どもを保育士が抱き上げベビーラックに乗せると、すぐに眠りにつきました。その後、保育室の中央に布をしいておままごとなどをして遊びました。

食事は、月齢の低い子どもから数名ずつ分かれてホールに行きます。食事の前には保育士が食事の歌を英語で歌い、子どもと一緒に「いただきます」をします。子どもたちは、「あー」など声を出し、手でつかんで食べたり、スプーンを使ったりして、意欲的に食べていました。

午睡時間は、抱っこやトントン、体をさすってもらったりして、穏やかなオルゴールの音楽が流れるなか、眠りにつきました。

◆ 1歳児クラス（プリムローズ）

朝の集まりとおやつが終わると、子どもたちは保育室に戻って手を洗います。その後、手遊びをしながら、「ジェリーフィッシュ（くらげ）」の歌を英語で歌い、絵本「ぶーぶーじどうしゃ」の読み聞かせをしてもらいます。その間に、保育士が子どもを順番にトイレに誘い、おむつ交換をしていました。

次に、「ヨーイドン」で2人ずつハイハイの競争をしました。その後、帽子をかぶり、散歩に出かけます。靴を自分で履こうとする子どももいます。左右間違っていて履いている子どもには「できるね」と褒めながら保育士が直していました。バギー車に5名乗り、2人が歩いて出発しました。保育士は、「トラッ

ク通るね」「ちょうちょ飛んでいる。どこいくのかな」など、子どもに話しかけていました。

園に戻ると手を洗い、絵本を2冊読んでもらいます。

リトミックは、0歳児クラスと一緒にいきます。子どもは一人一人鈴を持っています。音楽に合わせて身体をひねったり、ジャンプをすると、鈴の音がします。「カメハメハ大王」などの曲で踊ったりしました。

食事の時間までは、自由に積み木で遊んだり、色水の入ったペットボトルを持って遊ぶなどしていました。

食事は、「Thank you for……」と食事の歌を英語で歌い、挨拶をして食べ始めました。子どもたちは、ほとんどがスプーンを使っていました。

食後は保育室で歯磨きをして、保育士が仕上げ磨きをしていました。

◆ 2歳児クラス（ダファデル）

朝のおやつはクッキーと牛乳で、子どもたちはクッキーの大きさを比べ合ったり、食べた後の形を見せ合ったりして、楽しそうに食べていました。おやつの後、保育士は時計をもって、「長い針が6になったら、リトミックがあります」など、今日の活動の説明をしていました。そして、「今日は楽しいことがあるよ。今日は水遊びをします」と言いました。

リトミックは4、5歳児クラスの保育室を借りて行います。専門講師が電子ピアノを弾くと、子どもたちは横一列になって、「よろしくおねがいます」と言いました。「何人いるの？」と講師が聞くと「9人！」と、子どもたちが答えます。体の部位を知るダンスをしたり、飛び出す絵本を用いて、音楽に合わせて、魚やカニ、カメなどを真似て身体を動かしました。

トイレは数名ずつ対応し、自分で着脱ができるように支援していました。待っている子どもは廊下で手遊びを楽しんでいました。

水遊びでは、2名の保育士が子どもの遊びにかかわり、1名の保育士は、全体を監視するという役割を分担して、安全に配慮していました。

食事の時間、着席するとまず自分でエプロンを付けます。配膳とメニューの紹介は保育士が行い、食事の歌を英語で歌い、当番が挨拶をしました。保育士は、スプーンの持ち方を適宜指導しながらも、「パプリカはピーマンのお友達だよ」など子どもが楽しく食事ができるようにしていました。

◆ 3歳児クラス（ブルーベル）

朝の集まりを終えとお茶を飲み、トイレに1列で向かいました。

保育室に戻ると、一人ずつ保育士が子どもの名前を呼んで、抱き上げていきます。その後、「あらま！」という絵本を子どもたちに読みました。

アクリルのカラフルな積み木や、ビー球が入った木製の積み木を出して保育士が遊びの説明をします。子どもたちは積み木を重ねたり、たくさん手にもって歩いたり、ドミノのようにして自由に遊びました。

リトミックでは、まず講師の前に一列横に並び、一人ずつ歌に合わせてフルネームを言います。「歌うときは？」「肩幅は？」など言うと子どもたちは自分の姿勢を正していきました「お口は？」と聞くと「3本指」と答える子どもがいて、「そうだね、3本指が入るくらいだね」と講師が言いました。

ドレミファソラシド、ドミソなどを大きい音や、小さな音でメリハリをつけて講師が弾くと、子どもたちもその大きさ、音程に合わせて歌っていきます。「カメハメハ大王」を歌ったり、出された絵カードを見て、魚をまねてすいすい泳ぐポーズをしたり、カニやカメの動きをしていました。サメの音楽がかかると、子どもたち身体を伏せ、隠れようとして壁際に集まりました。

水遊びの前には、ルールの説明を受けました。バケツ、ペットボトル、水鉄砲、じょうろなどで遊び、プールの中に入って遊んでいる子どもも多くいました。

食事は、保育士が配膳をして、皆で英語の歌を歌い、当番が挨拶をして開始していました。箸を使っている子どももいて、「がんばる」と言いながら食べていました。

◆ 4、5歳児クラス（マーガレット、エーデルワイス）

朝の集まりを終えると保育室でお茶を飲みます。その後、「どろんこハリー」の絵本を読み、5歳児クラスと4歳児クラスの子どもが順にトイレにいきました。その間、子どもの爪のチェックを保育士が行いました。

出欠を取ったあと、今日の活動を保育士がホワイトボードに書いて、子どもに説明していきます。

今日の活動の「カブトムシの研究」では、保育士が「こっちの大きい方の箱にカブトムシさんに引っ越してもらっただけ、どうしてだか分かる？」と子どもたちに問いかけます。子どもたちは「せまい」「動けない」「上につかえてしまう」などと話し、保育士はそれぞれに「そうね」などと応じます。「公園の広い所で遊んでいたから」という子どももいました。

カブトムシの引っ越しを終えると、子どもたちに紙を配ります。「カブトムシを見て、気がついたことや、気をつけることを書いてください」と保育士が言うと、子どもたちは、各自、鉛筆やクレヨン、ひらがな表を持ってきました。子どもたちは、考えたことを言葉に出していました。文字を書くのが難しい子どもは、ひらがな表を見ながら保育士に聞いて書いていました。子どもたちが一人一人発表をしていきます。「カブトムシの角は鋭い」と子どもが言うと、「鋭いという言葉をよく知っているね」と返し、保育士は一人一人に対してコメントをしていきました。

水遊びでは、プールから水を汲み出してペットボトルやバケツ、水鉄砲、水車などで、濡れるのを気にすることなく遊んでいました。

食事はバイキング形式で、味噌汁とお茶は保育士が配膳し、ごはんとおかずを子どもたちが順番に自分の分をよそっていきます。当番2人が前に出て献立の紹介をして、英語の歌を歌いました。食事時間は、子どもたちの会話がはずんでいました。食べるのが遅い子どもには、「もうちょっと頑張ろうね」と保育士が声をかけていました。

事業者コメント

開園初年度、2年目と横浜市の監査を経て、3年目となるこの時期に第三者評価受審の重要性を改めて実感いたしました。受審にあたり、勤務する全スタッフと共に準備を行うことで保育の重要性やこれからの課題も改めてクローズアップし今後の取組みに向けて新たな視点を得られる機会となりました。社会的存在としての園運営を多面的視点から検証する機会が得られたことを、職員一同心より御礼申し上げます。今回の受審においては、評価機関の調査員による丁寧な分析結果を受け、日頃独自に取り組んでいる点を評価いただけたこと、地域との連携や非常勤職員も含めた保育水準の質の向上にも引き続き尽力して参ります。

また、この度の受審に伴いお忙しいなかアンケート回答にご協力くださった保護者の皆様へこの場をお借りし深く御礼申し上げます。鶴見という地域性を活かし、日本の伝統文化をしっかりと備えグローバルな社会で活躍できる人間教育を目指して参ります。

ポピンズナーサリースクール鶴見
施設長 開田 知子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

●市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

●横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.lg.jp/kenkou/fukushi/>

●かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.knsyk.jp/search/3hyouka/index.html>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0011 横浜市中区太田町4-49 NGS横濱馬車道802号室

TEL : 045-222-6539/6501 FAX : 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>
